

平成30年度

福岡市公共事業再評価等監視委員会

《 議 事 要 旨 》

【事後評価 2件】

【住宅都市局】

① 都市再生整備計画事業 福岡市東部地域地区 事後評価

【港湾空港局】

② 都市再生整備計画事業 アイランドシティ地区 事後評価

平成30年度 事後評価対象事業

① 都市再生整備計画事業 福岡市東部地域地区

<事業全般>

(委員)

○商業・業務施設の延床面積の増加とはどの程度か。

(住宅都市局)

●27,756ha 程度増加している。

(委員)

○再開発は魅力的である一方、中心部と周辺部との間に地域格差が生じやすい。今回の計画においては、周辺部の公民館を改修したことにより、中心部との格差が是正されており、周辺部住民の取り残された感を軽減することができている。周辺部と中心部との格差がない、いわゆる広域的な利便性を向上するような開発が必要という教訓をもう少し強調すべきだと考える。また、今後も周辺部に目を配りながら再開発を行う必要があると考える。

(住宅都市局)

●参考にさせていただく。

(委員)

○公民館の稼働率はどうか。

(住宅都市局)

●いずれの公民館においても、基本的には平日・休日ともにほとんどの部屋が常時利用されている。

(委員)

○稼働率が高いということは、飽和状態であり、これ以上の利用者増は見込めないのではないか。

(住宅都市局)

●現在利用している団体の利用人数を増やすことで、公民館利用者数の増加につながると考える。

(委員)

○公民館利用者数の目標値を達成できなかったが、稼働率が高いということは整備した効果があったと考えられる。

(委員)

○駅の利用者数は人口増に大きく影響を受けると考えるが、駅の利用者数と居住人口の伸び率はどのようになっているか。

(住宅都市局)

●居住人口が従前値に対して110%、駅乗降客数が従前値に対して120%であり、乗降客数の伸びが人口の伸びを上回っている。これは、千早駅周辺の土地区画整理事業により商業・業務施設が増加し

たことによる来街者や通勤者の増加によるものと考えている。

(委員)

○整備を行わなかった公民館の地区人口は増加しているにも拘わらず、なみきスクエアのオープン後公民館利用者数が減少しているのはなぜか。

(住宅都市局)

●近くに新設されたなみきスクエアを利用しようという一時的な傾向によるものであると考えている。ただし、本計画で整備した3公民館は、なみきスクエアオープン後も利用者数が若干伸びており、整備による効果があったと考えている。

(委員)

○なぜ東部地域地区という名前になったのか。

(財政局)

●香椎や千早を含む東部広域拠点の範囲に含まれているためである。

【結 論】

<事後評価について>

事後評価は、適切になされたと判断する。

平成30年度 事後評価対象事業

② 都市再生整備計画事業 アイランドシティ地区

<事業全般>

(委員)

- 香椎などは、「再生」ということは理解できるが、アイランドシティ地区のように新しいところに「再生」ということはどういうことか。事業の位置づけを教えてください。

(住宅都市局)

- 都市再生という名前であるが、自治体が抱えている課題を、自治体が主体となって解決していく制度で、再開発に限らず、広く用いられている制度。

(委員)

- 新しい地区なのに再整備を行うということが、理解しづらい。

(港湾空港局)

- 旧まちづくり交付金の中で、平成16年度に都市再生整備計画事業として創設されたもの。通常は、まちの再生ということで、再整備がメインになっていると思われるが、都市再生の要件である「地域の特性を活かした、個性あふれるまちづくり」というところに主眼をおいて、この事業を活用し、新たなまちの整備をしているところ。

(委員)

- 資料を見たときに、タイトルが「生」の言葉がなく、再整備になっていたので、やり直しをしているのかと思った。

(港湾空港局)

- 誤記であり、修正する。

(委員)

- 目標2として「活力あるコミュニティの創造」と掲げ、指標として公民館の利用者数を用いて、一定の成果があるように判断しているが、一方住民アンケートでコミュニティの要素が、他の項目より不満が多いように思うが、事業課としてどう考えるか。

(港湾空港局)

- 公民館では、有料のサークルが使用できず、そういうところが不足しているのではないかと推察している。今後のまちづくりの中で、民間でコミュニティ施設を設ける計画があり、それにより満足度が上がってくるのではないかと考察している。公民館の利用としては、住民の満足を得ていると推察している。

(委員)

- 新しいまち、しかも若い世代の多いまちが、周辺地域にどういう影響を与えているかという広域の視点をまちづくりの評価に加味すべきではないか。

すなわち、新しいまちが古いまちに影響を与えたということが、古いまちの再生につながっているという視点も必要なのではないか。香椎・千早などの東部地域への影響はどうか。

(港湾空港局)

- アイランドシティは若い世代が多く、小中連携校などの教育環境が評価されている。そういう先進的な取り組みが東部地域や福岡市全体にも波及すれば良いと思っている。

(委員)

- アイランドシティから香椎・千早の東部地域への人の移動はどうか？

(港湾空港局)

- アイランドシティの子供は塾などで香椎の利用が多いと聞いている。また、アイランドシティに働きに来る人は、千早駅を使ったりしているというアンケート結果もでている。

(委員)

- アイランドシティ地区へ直接バスで行くわけではなく、駅の利用もあるということか。

(港湾空港局)

- その通り、駅の利用もある。当然だが、天神から直接バスを使って来る人もいる。

(委員)

- 新しい地区を重点的に整備することで、他の地域との格差が生まれてきて、後に問題がでてくる可能性がある。周辺に相乗効果、波及効果があるということ調べておくと、格差問題を議論する際に、役に立つのでは。

- 周辺地区と同じようなものを作ると波及効果が見込めない。東部全体に活力が広がるように差別化が必要。

(港湾空港局)

- 先進モデル都市としてのアイランドシティの取り組みが、全市に波及するというのが大きなコンセプトの一つとなっているので、先進的な取り組みを行い、それを周りに影響を与えていくようになれば良いと考えている。

(委員)

- 新しい世代なのに、コミュニティ活動が活発とは驚かされる。

(港湾空港局)

- 来年4月には新しい小学校ができ、新しいコミュニティができる可能性がある。そういう人も巻き込みながら、新しいまちづくりをしていければ良いと思っている。

(委員)

- 今後、東部地域でアイランドシティよりもっと交通アクセスのよい九大跡地の開発が進んでいく。東部全体でどういうふうな相互作用を見るかという広い視野も必要。アイランドシティの価値が下がるということがないよう、相互作用、相乗効果を検討し長期的、広域的な視野をもって整備してほしい。

(港湾空港局)

- 適正な機能配置と、役割分担を考えていきたい。

(委員)

- 全体で相乗効果をどう出すのかという視点を、最後のまとめのところで追加できないか。それにより、非常に可能性のある都市開発ができる。
- 福岡市は、人口や税収が増えているということだが、福岡県や九州の他都市では増えていない。福岡市は周辺地域から人口を吸収しているという意味で九州、ひいては西日本全体に対して責任があるという視点で、今後考えてほしい。

(港湾空港局)

- 承知した。

【結 論】

<事後評価について>

事後評価は、適切になされたと判断する。

<今後の方針について>

方針に基づき、適切に推進すること。